



DXPの「どうするDX」《概要版》

運輸・物流業界における生成AI革命

2026年、デジタル技術と生成AIが引き起こす根本的な「ルールチェンジ」の渦中にあります。本レポートでは、持続的な競争優位を確立するための具体的な指針を提示します。

株式会社DXパートナーズ

2026年2月8日

エグゼクティブサマリー

3つの断層的变化

認知的リソースの完全置換

佐川急便はAI-OCRで月間8,400時間削減。NTTロジスコは生産性60%向上を実現しました。

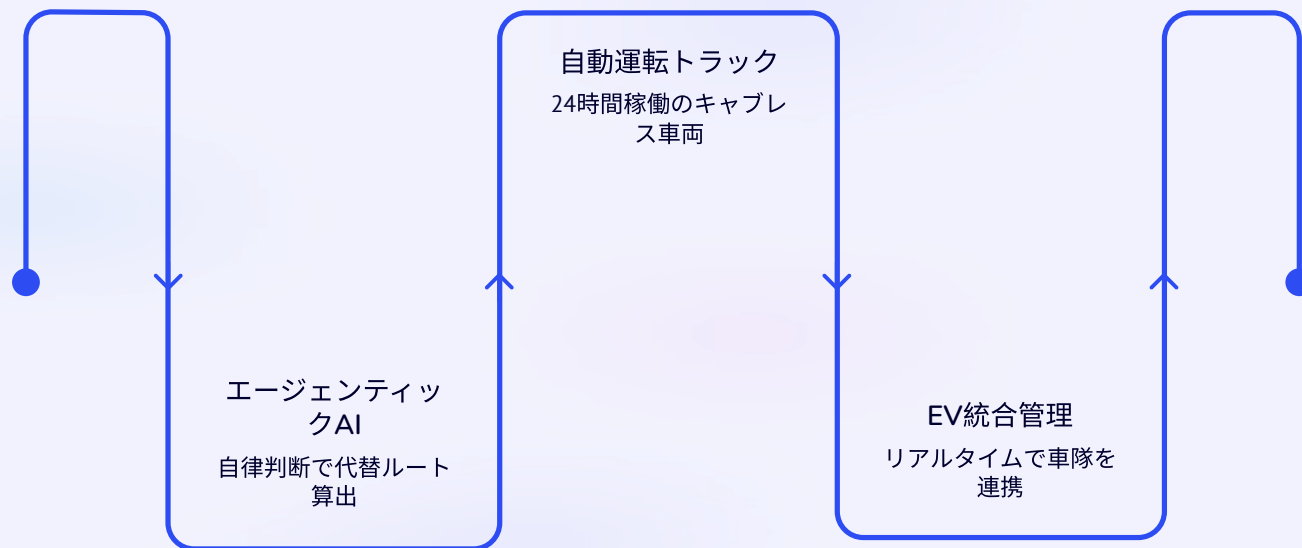
プロセスの最適化

マースクは生成AIで燃料消費と配送時間を10~15%削減。リアルタイム調整が標準化しています。

法的ルールチェンジ

2026年4月施行の改正物流効率化法により、物流は経営戦略の中核指標へと再定義されました。

技術動向：自律型AIの台頭



エージェンティックAI

港湾ストライキ発生時、AIが即座に代替ルートを算出し、炭素税を計算。運送業者への注文ドラフトまで自動生成します。

SELF DRIVE Act 2026

米国で「キャブレス」車両の公道走行を支持。運転席を排除し、積載効率を最大化する設計が認められつつあります。

ロールモデル分析

デジタルを前提に物流を再定義した3つの先進企業の戦略を分析します。



日本郵船：ソフトウェア企業への脱皮



内製開発の機動力

ローコードツール

「OutSystems」で40人の開発者が30以上のアプリを構築。開発工数を最大50%削減しました。



現場知見のデジタル化

ビジネスプロセスを理解した自社社員が開発に携わり、実用的なツールを次々と生み出しています。



複利的な生産性向上

共通コンポーネントの再利用により、アプリを増やすほど開発スピードが上がる仕組みを実現しています。

マースク：グローバル・オーケストレーター

収益源泉の転換

資産保有から、データとAIによる「物流の知能化」へ

01

需給の自律的マッチング

IBMとの提携で生成AIモデルを活用。在庫バランスと出荷容量を瞬時に最適化します。

02

動的ルート最適化

燃料消費15%削減。「船を貸す」から「最適な結果を売る」ビジネスモデルへ転換しました。

03

共感価値の創出

リアルタイム追跡と環境負荷データを提供。顧客のESG目標達成パートナーとして地位を確立しています。

Hacobu: ネットワーク効果による共創

場の提供

「MOVO」プラットフォームで荷主、運送会社、倉庫を接続

利用者拡大

ネットワーク効果で個社では不可能な効率性を実現



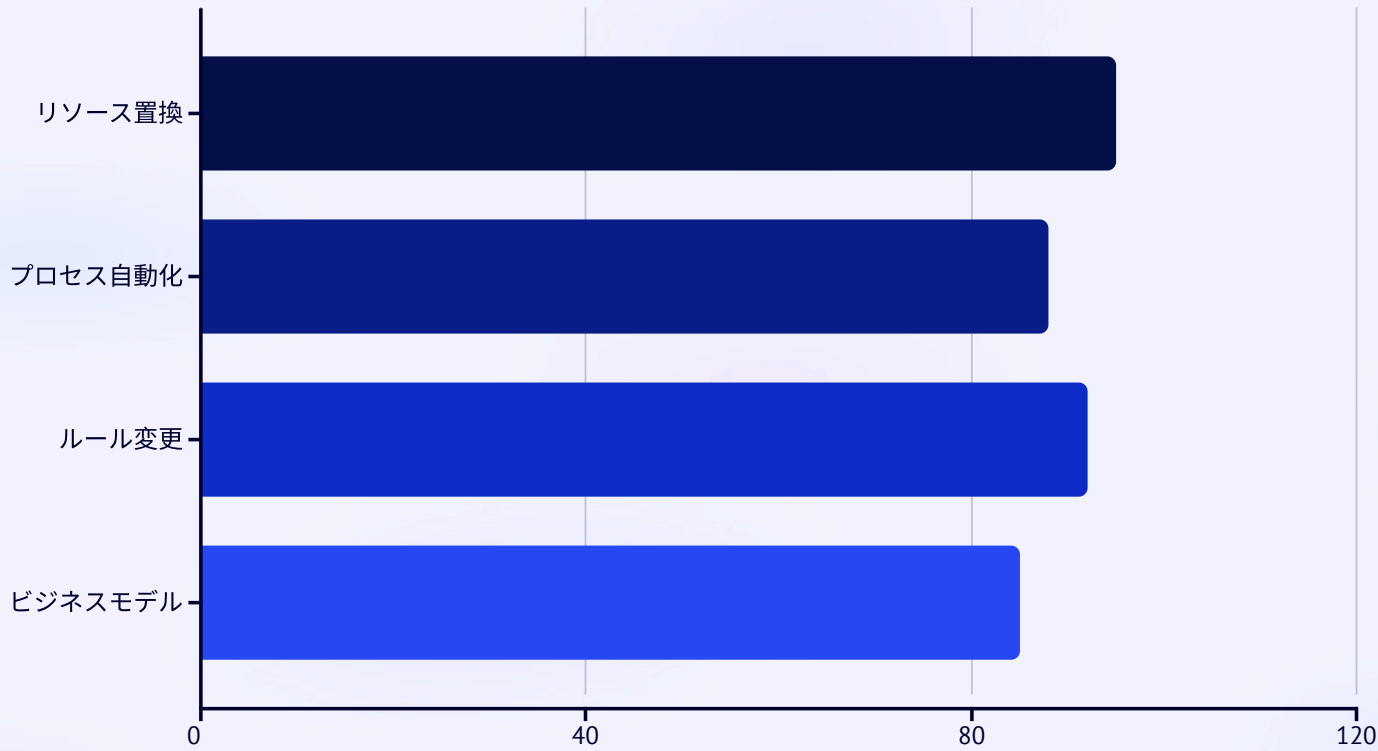
データ蓄積

待機時間の可視化と車両予約のデジタル化を実現

最適化精度向上

参加企業増加により配車・ルート最適化が進化

2026年以降のビジョン



完全置換の時代

キャブレス自動運転トラックが24時間稼働。輸送コストの50%以上を占めていた人件費が排除されます。

無選択型意思決定

荷主のAI執事が最適な物流手段を自律決定。人間は「承認」のみを行う時代が到来します。



フィジカルインターネットの完成



荷物の自律移動

インターネットの packets のように最適経路をリレー



稼働率の極大化

車両稼働率が極限まで高まり、物流コストが劇的に低減



ユーティリティ化

水道や電気のような「蛇口をひねれば使える」インフラへ

経営層が取るべき5つのアクション

1

パーパスの再定義

「モノを運ぶ手段」から「顧客価値を最大化する智能プラットフォーム」へ転換してください。

2

独自Coreの磨き上げ

AIに選ばれるための独自データ(実績、信頼性、環境負荷)を構造化し、管理体制を確立してください。

3

内製開発体制の構築

ローコードツールと生成AIを駆使し、現場の課題を即座にソフトウェア化できるチームを作ってください。

4

協調・共同化の推進

他社とデータ・アセットを共有する「場」に参加し、ネットワーク効果を味方につけてください。

5

顧客関係の再設計

AIに選ばれるアルゴリズム対策と、人間しか提供できない共感価値の両立を目指してください。

運輸・物流業界は歴史上最大の転換点を迎えています。デジタルと生成AIを前提とした「ルールチェンジ」の旗振り役となることが、日本企業の経営層に課せられた使命です。